

名古屋校舎と愛知池と現代中国学部

土橋 喜(現代中国学部)

名古屋校舎での仕事は私にとって大変重要なものになった。1997年に現代中国学部が開設されたときから、私が担当している情報科目は必修であった。2科目4単位が全員必修となり、東教室棟にパソコン実習室が設置された。当時は情報を必修にしている大学がまだ少なかった。その後、瞬く間にどこの大学でも情報が必修科目になった。しかしほとんどの小中高でパソコンがまだ配置されていない時期であったため、入学してくる学生の大部分は自宅にパソコンがなく、タイピングも不自由な状態であった。学部開設から数年間、200人ほどの新入生を4回に分け、入学直後から全員にパソコンの実習を行ったが、まったくの初心者相手に悪戦苦闘の連続だった。このような状況を恩師に報告したところ、大いに同情されたことを覚えている。振り返ってみると、苦労しながらもよい経験を積めたことで、自分が鍛えられ、教師として成長できたと思っている。

ところで、名古屋校舎からの眺めはなかなか素晴らしい。バスが発着するロータリー付近から見える黒笹駅方面、東教室棟から見える三好の中心街、研究館から見える愛知池や名古屋方面、いずれも名古屋校舎が高台にあるので見える美しい風景だ。名古屋のような大都市に近く、名古屋校舎の地形のように、周囲が見渡せる丘陵地は、貴重な存在であろう。

三好方面の夜景も美しい。夜になると三好の中心街のネオンがまさに闇夜に輝く宝石箱のようになる。そして東名高速を走る車のヘッドライトが、静寂の中を帯状に連なって動いていく様子は、見ていて飽きない。8月上旬の花火の季節には、研究室や廊下の窓から、遠方の打ち上げ花火が見え、風情を感じる。名古屋校舎から周囲を眺めていると、四季折々の変化が肌で感じられる。名古屋校舎で働いていると、最初にこの地を選び、キャンパスを建設しようと計画した先人達の思いが伝わってくるような気がするのである。

定年まで名古屋校舎に通勤するつもりで住まいを探したところ、偶然にも近くの東郷町に見つかった。天気の良い朝は自転車で自宅を出て、愛知池の遊歩道を一周して名古屋校舎に通ったこともある。遠回りをしながら、車が入れない愛知池の遊歩道を自転車で走ると、何とも言えない爽快な気分になれる。特に四月の桜の花が満開のと

きや、五月につつじが咲いたときなど、のんびりと自転車通勤を楽しんだ。笹島移転後は、愛知池を回って通勤することもなくなるので、一抹の寂しさを覚える。

名古屋校舎の周囲の環境は気に入ってはいるものの自分の仕事にとってはあまり便利ではない。笹島移転によって自分の研究活動で不都合だったことが解消される面も多い。日本の情報処理関連の企業は、東京をはじめとした大都市に集中しており、中部地区も名古屋市内に多く集まっている。重要な研究大会なども東京や大阪などの大都市で開催されることが多い。笹島校舎は新幹線に近いので、研究会の開催や学会活動への参加など、研究活動がやりやすくなると期待されるのである。また笹島校舎から遠くないところに名古屋の情報機器関連の店舗がいくつもあり、機材の調達では実際に見に行くことが容易になり、新しい情報も得やすくなる。

ところで、私は名古屋校舎が売却されるのがもったいなくてしかたがない。黒笹駅からも遠くないので、いくつか活用方法があるのではないかと考える。しかし今後の日本の人口減少を考えると、これまでのような郊外型の大学では受験者が集まりにくいと言われており、笹島移転なくして愛大の今後はあり得ない。

現代中国学部が開設されてから今日まで、学部の受験者数は増減を繰り返し、決して安泰とは言い難い状況である。しかし、受験者が減少しても定着率がよくなることが幸いして、定員割れすることはなかった。笹島校舎移転後は、これまで以上に受験者を集め、愛大全体を発展させたいものである。



写真1 東教室棟(2010年9月)



写真2 中央教室棟(2011年4月)